

平成30年度まちかどミーティング会議録

開催日 平成30年8月28日（火）
地 区 音羽町・木場町地区
会 場 住吉コミュニティセンター

<町内会からの要望>

○司会 それでは、意見交換の時間に移りたいと思います。町内会からの要望に関する意見交換につきましては30分程度とし、残りの時間を当日参加者との市政に関する意見交換の時間といたします。あらかじめお配りしております町内会からの要望事項に従って進めてまいります。初めに各町内会ごとにそれぞれの要望内容に関して改めて趣旨説明や補足が必要な場合は説明をお願いいたします。一通り全町内会の説明が終了した後に要望全体を通じての質疑応答を行いますので、質疑に御協力をお願いいたします。

また、発言の際にはマイクをお持ちいたしますので、町内会名とお名前を述べてから要点を簡潔に発言をお願いいたします。

初めに、住吉泉町内会さんから提出されました要望は1番と2番になりますけれども、これについて住吉泉町内会さんから補足説明等はございますでしょうか。お願いいたします。

◆市民 住吉泉町内会の■■■■と申します。趣旨説明と申しますか、1番の鹿の出没の件ということで、書いてあるとおりなのですけれども、私たちの縦列の話しかしませんが、横の町内会の方はわからないのでお話ししませんけれども、去年までは滝上循環器科内科と今野商会の通りまでは鹿が来ていたのは皆さん町内の方は知っていて、夜中にでっかいのがごろんと道路に出ているというのがあったのですけれども、今年の冬あたりから住吉公園、ちょうどコミセンの前の公園なのですけれども、住吉公園、そして公営住宅の中の公園に鹿が出だしまして、ひどいときは5頭の親子の群れで、住吉公園のパークゴルフ場があるのですけれども、朝から11時ぐらいまでずっといたというのが実情です。

それで、大体庭木の葉っぱと皮を食べていて、これで終わったかなと、春先雪が解けてそろそろ食べ物もなくなっていくかなと思ったら、今度はチューリップの球根が芽を出したころに、その球根を狙ってまた出没していると。球根を食べ終わったら出なくなったのですけれども、このままいくと、ちょうどステイの横の通りですから、うちの町内を越して双葉町さんまで行くのかなというようなちょっと心配をしています。鹿自体は臆病な動物ですので、人に危害を加えたりはしないのですけれども、何せ体が大きいので、主に車に当たったりということがあるのかなという懸念をしています。

2番目のカラスの件は、この鹿の件があったので、皆さんちょっと敏感になったのかなというのもあるのですけれども、カラスの巣が公園であったり通りであったりあるのですけれども、ちょっと襲われたという話が。襲われたというか低空飛行で頭の上を過ぎて行って自転車で転んだりとか、怖いですよというお話を今年は多く聞いたので。御意見を聞く前にあれなのですけれども、ちょっと役員で話したのですけれども、そういうのもあるけれども、対策ってどうなっているのというお話もさせていただいたら、「注意喚起の札もあるし、巣立った後にはその巣の撤去と注意喚起の札も取っていただいて、結構丁寧な対処はしていただいている。」ということなので。他で見てもそれ以上の対処は無理かなってということはあるのですけれども、もしそれ以上の対処法があるのであれば、お願いしたいということで出させていただきました。町内会は以上です。

○司会 ありがとうございます。趣旨説明の中で、若干質問等も含まれておりましたので、市の方から回答が可能であればですね、お願いしたいと思います。

◎環境衛生部次長 環境衛生部の入谷と申します。御質問ありがとうございました。本日、鹿やカラスの方を担当している環境生活課の職員が来ておりますので、詳しい説明をさせていただきたいと思います。

◎環境生活課長補佐 環境生活課の片石と申します。どうぞよろしく願いいたします。基本的に今エゾシカの関係と、それからカラスの関係ということで御質問があったということでございますが、基本的には回答の欄に書いたとおりの内容になってくるのですけれども、エゾシカにつきましては、もう平成12年ぐらいから大幅に生息数が全道で増えてしましまして、平成22年には68万頭という。34万頭からですから、もう倍ぐらいに大きくふえてしまったということでございます。もちろん山の中で生活していたのですけれども、冬になると餌がなくなってしまう。そうなってくると山の中から出てくるようになっておりまして、先ほど[]さんの方でお話しした双葉町も既に飛び越えまして、線路の付近までもう鹿の方が今は出てきている状況でございます。

ただ、大変申しわけないというか、言いようがないところではありますが、山に戸を立てるわけにはいきませんので、山から出てくる鹿をしっかりと防ぎ切る方法というのがございません。町の中まで出てきた鹿について、例えば銃で撃つとか罠で獲るとかということは逆に大変危険を伴いますし、追い払おうとして爆竹とかで脅かしたりなんかしますと、急に走り出して道路に飛び出して交通事故にもなってしまうということになりますので、今のところは道としても市としても、できるだけ以前鹿とかが出てこなかった時期の平成12年ごろ、全道で34万頭ぐらいの鹿だった、このころにぜひ戻していきたいということで、捕獲事業をしっかりと頑張ってやっていておりますので、その点で御了解をいただきたいというふうに言うしか今のところございません。

また、庭の中でチューリップとかさまざまなものを植えていらっしゃる方もいらっしゃると思います。もちろん鹿の方は餌を求めて来ておりますので、そういうものをできれば囲っていただくとか、そういうことをすることによって、鹿が、「ここ来てみたけれども餌になるものがないな。」と。餌になるものがないのであれば、わざわざ出てこないということになってきますので、できる限りはですね、そういう庭木の畑とかそういうものについても冬囲いとか、それから畑の方もできるだけ囲っていただく形の中で、「鹿が出てこない町」みたいなところをお願いできればというふうに思っております。

次に、カラスの件ですね。カラスの件、御回答の方に大体のことは書かせていただきました。実はカラス、昔から人とは本当に切っても切れない縁にいる動物でした。確かに最近のカラスは襲ってくるよという話なのですが、昔は経済活動も大変ですし、皆さん生活の方が昔は大変だったものだから、カラスがそこで騒いでいても誰も気にしていなかったというのも大きいと思います。ですから、春になってカラスが巣をつくっていたって誰も気にしないし、そうなればカラスの方もヒナを勝手に育てて、そして巣立っていったということなのですが、やはり最近カラスが近くにいると、もう嫌だということで、10年、20年前から順次巣があったら取ってくれよというお話も出ています。当然、取れるのは、親カラスは取れないのですよ。どうしても空を飛んでいますしね。そうなってくると、取れるのはせいぜいヒナだけ。でも、親にとっては野生動物でも同じですので、子はかわいいんですよ。なものですから、子カラスを取られるということになりますと、それまで襲ってこなかったカラスも襲いかかってくるようになってしまうと。ある意味、かなりの悪循環にはなってしまうということもございまして、今現在は、現状のカラスの巣ができて場所とかそちらの方の様子を見ながら、もし危険度が高まってきた場合には、巣の撤去をすとか、ヒナを取るとかという形はするのですが、何もしていないカラスを全部取れば、翌年はとんでもなく危険なカラスになってしまうということもありますので、今は市民の皆様から通報があつて、ちょっと襲ってきているよとかいうことになってから取る場合もあるということも御了解いただきたいというふうに思っております。もしそういう事態が発生した場合は、御遠慮なく市の環境生活課等、また公園内であれば、緑地公園課の方とかにお電話をいただければ、調査して対処したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。以上でよろしいでしょうか。

○司会 それでは、先に進めたいと思いますけれども、スプリングス高丘自治会さんから提出されました要望は3番、4番となりますけれども、これにつきましてスプリングス高丘自治会さんから趣旨説明等はございますでしょうか。よろしいですか。はい。

それでは、この町内会要望について質疑に入りたいと思います。これらの要望に

対する市の回答について、質問がある場合につきましては、挙手の上、マイクをお持ちいたしますので、町内会名とお名前、何番目の要望に関する質問かを述べてから、簡潔に発言をお願いいたします。どなたかいらっしゃいますでしょうか。

町内会からの要望事項4点ですけれども、特になければ次の方に移りますけれども、どなたかいらっしゃいますか。はい。

◆市民 高丘泉町内会の■■■■です。鹿の被害についてお尋ねします。この回答ですと、22年には34万頭、28年には26万頭というふうに減っているということですよ。その原因は何なのでしょう。何かもうしようがないなという感じが漂っている。我々住民もそうだし、市もそういう状況でないかと思えます。何かこれについて全道的にうまくいっているところとか、そういうところはないのでしょうか。以上です。

○司会 市から回答をお願いいたします。

◎環境生活課長補佐 再び環境生活課の片石でございます。先ほども若干の御説明をしたとおりですね、野生動物というのは基本的には餌があれば際限なく増殖していくと。それをですね、人間が生活していく中で、どうしてもやっぱり問題が出てくればそれを減らしていこうという努力をするわけですし、道の方も国の方も、市もそうですけれども、平成22年に最大数にふえた前後あたりから捕獲事業をそれぞれ進めてまいりまして、その中で生息数を減らしてきているということでございます。

ただ、鹿というのも雌は2歳からもう生涯毎年1頭ずつ確実に産みますので、例えば全道で平成22年に68万頭という話をしたのですけれども、68万頭のうちの半分は雌なのです。ということは、年間で34万頭の子供を産むということになってきます。ですから、年間で毎年10万頭以上のエゾシカを捕獲していたのですけれども、それだけでは簡単には数が減っていかなかったということなのです。年間でそれだけ十数万頭獲っても、4万頭ぐらい減らすのがせいぜいということに進めてまいりましたが、今現在はかなりの数まで減ってきているということになっております。ただ、これを元の状況まで戻すとなると、まだ数年はどうしてもかかるのかなという状況にはなっているということでございますが、そんなことでお答えは合っていますでしょうか。

すみません、失礼しました。では、ほかの町でエゾシカを減らすことに成功した町はないかという御質問でございました。大変申しわけございません。こちらの方につきましてはですね、全道の情報等も聞いておりますが、基本的には北海道の町というのは全ての町が周りが山に囲まれているところでございますので、その山から出てくる鹿を何とかできた町というのはございませんし、鹿自体は行政区域が関係ないですので、餌があるところあるところをめぐって歩く動物ですので、そういう意味では、例えば一つの町で物すごい力を入れて、まちなかにいる鹿を全部もし獲ったとしても、ほかの町からどんどんやってくるということになってしまいますの

で、そういう意味では、なかなか一つの町で何かうまく成功させるということではできてないということでございます。以上でございます。

○司会 よろしいでしょうか。はい、お願いいたします。

◆市民 私が聞いたのは、22年には34万頭、それから28年には26万頭というふうに減っているということですね。これの理由は何なのか、そういう研究成果というのはあるのかということを知りたいのです。

◎環境生活課長補佐 大変申しわけございませんでした。先ほどもちょっとお話ししましたが、頭数が減っているのは捕獲事業を強力に行ったからです。鹿を鉄砲で撃ったり、罠で獲ったりして数をどんどんどんどん減らしていったということですね。それによって数が減ったということであって、研究して何か鹿がどうしたら減るかとかという研究ということではなくて、あくまでも緊急対策として鹿をたくさん獲ったということでございます。

○司会 よろしいですか。

◆市民 続けて申しわけないです。ということは、私たち市街地の人間がどうこうしようとしてもしょうがないと。だから、山とかにいる鉄砲で撃てる鹿、捕獲できる鹿をどこかでやってもらう以外にないのだというふうなことなのではないでしょうか。そういうことであれば、ほかの近隣市町村と連携して、そして鹿全体を減らしていく、そういう方向がいいのかなというふうに思いました。感想ですので、よろしいです。

◎環境生活課長補佐 基本的には、野生動物の捕獲事業の基本計画は道の方で立てておりまして、その中で各猟友会とか、町にもかなり猟友会とかありますが、そちらの方への捕獲依頼。それから市町村の方へもそういう形の依頼もありますが、基本的には苫小牧市であれば、道の事業として平成28年には王子山山林で道の事業を起してもらって、捕獲をしたり、今年につきましては苫東の方で相当数の鹿が入っているものですから、そちらの方からまた捕獲事業を実施する予定でございます。以上でございます。

○司会 それでは、そのほかに町内会からの要望につきまして、はい。

◆市民 スプリングス高丘の■■■■と申します。同じ鹿の件なのですけれども、今、聞いているお話だと、市の方だと捕獲事業というのが一つの対策であって、それしか方法がないというふうに解釈しているのですけれども、私個人的にはそれはすごく一時的な対策ではないかなと思っています。何の根本的な対策にもなっていないのではないかなと思っています、個人的には地球環境の改善などがその対策になるのではないかなと思っていますが、市としてそういった対策、具体的な対策等はなされていないのでしょうか。

○司会 それでは、市の方からお願いいたします。

◎生活環境課長補佐 自然環境の中でということですか。地球環境の中で改善していくということでしょうか。基本的には、エゾシカに限らず、エゾシカもそうなのでは

れども、歴史的に考えると北海道の中、昔、人がほとんど住んでいなかった時期というのは、エゾシカというのはものすごく大手を振って、それこそ今の数ではないぐらいの数がいましたが、先ほども言ったとおり、野生動物というのは餌があれば際限なく増えていくのです。それを抑えているのは何かというと、逆にいうと天敵になる動物。だから、北海道であればですね、もともとはエゾオオカミとか、そういうオオカミとか、要するに食物連鎖でいうと、上位にいる、要するにエゾシカを餌として食べる動物がたくさんいたのです。その中で生存バランスというのは普通とられているものなのですが、もちろん開拓時代に入ってくれば、オオカミなんかは人も襲いますので、そういう意味ではもう今エゾオオカミというのは全く生存していない。そうすると、天敵がない草食動物ということでございますので、餌が豊富であればどんどん増えてしまう。オオカミの代わりに人間がやらないと、逆にエゾシカ自体は相当量が増えてしまえば冬に餌がなくなりますから、逆に餓死して死んでしまうということも発生する可能性もあります。

ですから、今の自然環境を維持する中では、やっぱり元々の自然環境、要するにそういう生態系がきちっとなっているところであればいいのですが、もう既にその生態系が崩れている部分については、人間が代替りの部分を行わなきゃならないこともあるのではないかというふうに思っております。よろしいでしょうか。

◆市民 ということは、やっぱりそれ以外はないということですね。

◎環境生活課長補佐 そうですね。どうしても人間の生活に影響が出る部分については、鹿だけではなくて、さっきのカラスもそうですけれども、やっぱり何だかんだどうしても被害が出てくれば、その部分を何とかしていかなきゃならないということは、手だてとしてはないかなというふうに思っております。

◆市民 特にあれなのですけれども、鹿が町に来るからどうのこうのというよりは、鹿を山に戻すような活動というのをやってもいいのではないかなと。ちょっと個人的には思いましたので、もし何かいい案があれば、是非よろしくお願いします。

◎環境生活課長補佐 お話の方はわかりましたが、要するに山の中に幾ら押し込んでも、山の中に餌がなくなってしまうと、また出てくるという繰り返しにはなってしまうということは御理解いただきたいというふうに思います。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、そのほかに。一番後ろの角の方、お願いいたします。

◆市民 住吉町内会の■■■■と申します。今の鹿の件なのですけれども、大変被害があちこちにですね。私も朝、展望台、公園まで行って、毎朝鹿がかなりいて、今年はさらに量が増えているということで、いつも毎日会うのですけれども、市としては有害駆除の申請というのはどこまでやっているのでしょうかね。それとも、何年か前には王子のところの有害駆除の申請で頭数を減らしたと。今回は苫東の方でも有害駆除の関係でやるということに聞いているのですが、それ以外で市としてもっと、

こういった被害があるので有害駆除の申請を出して強力で頭数を減らすということはやっていく予定はあるのでしょうか。

◎環境生活課長補佐 今回の御質問に対してのお答えですけれども、エゾシカの被害は、そのほかに農業被害もごございます。ですから、農業の関係の農水省の補助を得た中で毎年約500頭ぐらいは農地周辺に罠をかけての捕獲事業。これは捕獲許可を取りながらやっているということがございます。以上です。

○司会 よろしいですか。

◆市民 すみません。そうすると、今は農地の被害で罠だけということですか。銃ではやってないということで、罠だけで。

◎環境生活課長補佐 有害駆除事業ということで行っているのは、そんな形になります。もちろん以前から狩猟によっても当然ハンターが鉄砲で撃って鹿を獲るということもしております、そちらの方についても御協力を願っておりますので、基本的には平成28年度の苫小牧市内での捕獲数ですけれども、約2,700頭ぐらいを全体では捕獲しているという事実がございます。そういうことでございます。

◆市民 わかりました。

○司会 よろしいですか。それでは町内会要望でそのほかにもございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、町内会からの要望につきましては、これで終了いたします。

<当日参加者と意見交換>

○司会 次に、当日参加者との市政に関する意見交換の時間に移りたいと思います。多くの方に御発言いただけるよう、発言は簡潔にお一人1件ずつでお願いをいたします。残りの時間に余裕がございましたら改めて伺いをいたしますので、よろしく願いいたします。

なお、町内全体に関わらない個人的な要望や苦情等につきましては、本日、市の担当者が多数来場しておりますので、まちかどミーティング終了後に直接お話をお願いしたいと思っております。

本日のまちかどミーティングは、音羽町町内会、双葉町町内会、住吉泉町内会、高丘泉町内会、スプリングス高丘自治会、第八区自治会、春日清水町内会にお住まいの方を優先させていただきたいと思っておりますので、御了承ください。

それでは、市政に関して日ごろお気づきの点や御意見のある方は挙手をもってお願いをいたします。どなたかございませんか。

◆市民 第八区自治会の■■■■でございます。市の御方針として伺いたいのですが、沼ノ端地区とか中高一貫の教育というのがだんだん展開されているようですが、具体的にこれが各地区に広がるというような、そういう御計画というのはございますでしょうか。たまたま今伺いましたのは、私どもの地域の方の春日、清水、木場町の方

は清水小学校、開成中学校というのがまことに至近の距離にあり、しかも校舎も相当老朽化していつている。一貫教育を進めるのには極めていい環境にあるのではないかなとも考えていたこともございますので、ちょっと教えていただければと思います。以上です。

○司会 はい。今日は教育の方はいらっしゃらないですかね。よろしいですか。お願いいたします。

◎市長 教育委員会は今日は来ていません。今の日本の法律では、市長が教育行政に口出しすることができないということを前提に聞いていただきたいと思います。ただ、数年前に教育委員会法の一部改正がありまして、今、総合教育会議というのができて、そのトップは市長がやるようになっていきますから、この二、三年随分変わったのですが。しかし、執行権がゼロなのです、教育行政の。ですから、余計なことを言うと教育委員会に怒られますけれども、教育委員会が来てないので。

時代はですね、やはり少子化の中で小中一貫という方向に行かざるを得ないというふうに考えています。ですが、苫小牧も今、東中と東小の併置校に踏み込むことを決定いたしました。併置校と一貫教育とはまた随分違うのですが、一貫教育に向けた中二階として位置付けられて、同じ敷地の中で小学校と中学校があるという状況であります。これはやはりなかなか、教育委員会、特に校長会、教頭会あるいは先生方の組合がありますが、そういうところは非常にまだガードがなかなか高い、強いという今状況があります。ですから、少しずつ時代認識を共有しながら、やはり小中一貫という中で、子供たちがよりよい教育環境を作っていくような方向に行かないと、1学年で1クラスしかないとか、2クラスしかないとかというような状況では、教育上これもよくないというふうなことは、大都市圏以外、苫小牧も含めてそういう問題意識を持っておりますので、時代の中ではそういう方向に行かざるを得ないというふうに僕は個人的には思っているのですが、そこはやっぱり教育委員会がきちっとやはり手続を経て踏み込まないと駄目だと、できないという今のルールでありますので、是非、併置校が教育委員会が先生方も認めたということが今苫小牧の現状でありますので、是非、御理解をいただきたいなというふうに思います。

やっぱり先生方にとっては、これは未知の世界、一貫校というのは。でも、既にいろいろなところでもうやっているのですけれども、そこはやはり教職員組合との合意がなければなかなか踏み込めないということを御理解いただきたいと思います。

○司会 よろしいですか。はい。

それでは、そのほかにございますでしょうか。お願いいたします。

◆市民 高丘泉町内会の■■■■です。市政についてということではないのですが、インターチェンジの関係で、北電の鉄塔が移設されました。そして、そこを木の根っこ等が散乱しているのならまだいいのですが、そうではなくて1か所に集

められて、二、三十メートル幅、奥行き10メートルぐらい、高さ1メートルですから、倒壊の可能性というのではないのですけれども、ただ、そのうちあの上を歩く人が絶対出てくると思うのですよね。そうすると、その木に挟まったりすることがあるのではないかと。危ないなど、そういう危険性があるのではないかなと思うのですよ。帯状にあるのならばいいのですけれども、面としてあるものですから、非常にちょっと嫌な感じはするのですよね。鉄塔2つありますけれども、移りましたけれども、僕は支笏湖道路側の鉄塔の方しか行ってないので、そこしかわかりませんけれども。そのところは、あそこは市の土地だと思うのですけれども、そこはちょっと危険かなと感じますので。

○司会 それでは、市から回答をお願いします。

◎都市建設部長 都市建設部長をしております栗野と申します。よろしくお願ひいたします。今、お話のございました鉄塔ですか、ちょっと私どもも大変申しわけないのですが、その状況について把握できていないというのが現状でございますが、後ほど場所を再度確認をさせていただいて、我々もその現場を確認した上で北海道さんとも協議をさせていただいて、そういう危険がないような対応をさせていただきたいなというふうに考えてございますので、よろしくお願ひいたします。

○司会 はい。それでは、後ほど場所の確認をお願いしたいと思います。

それでは、そのほかにございますか。市政に関する御意見ということでございますけれども、どなたかいらっしゃらないでしょうか。では、 お願ひいたします。

◆市民 住吉泉町内会の です。よろしくお願ひいたします。前にもちょっとお話ししたことがあるのですけれども、来年、民生委員さんの改選期がやってまいります。それで、うちも前回のとき4人代わって、1人亡くなられて補充で1人見つけたのですけれども、来年定年者を含めて2名また探さなければ駄目なのですけれども、やや限界に近いのかなと。人間性があれば、会長の頼みなら聞いてあげようという方も出てくるのですけれども、まだなかなかその人間性を知っていただくまで至っていないのですけれども。これを何とか市の方に、市民児童委員さんは市の方で見つけていただいているのですけれども、民生委員さんの人探しといいますか、何とか市の方でお願いできないかなという。かなり苦しい現状で、2年前に2人で元民生委員さんと私で歩いて、市の方の力山さんとかにお手伝いいただいたのですけれども、見つかった後2人ともほっとして2人とも入院しました。それで、何とかならないかなという、ちょっとお願ひです。

○司会 それでは、市から回答をお願いします。

◎福祉部長 福祉部長の柳沢でございます。こんばんは。いつも福祉のまちづくりに御協力いただきまして、まことにありがとうございます。前回の一斉改選のときも本当に皆さんに御協力いただきまして、何とか欠員ゼロということで迎えることができ

たことは、本当に皆さんの御協力の賜物だというふうに感謝しているところでございます。

ほっとしたところで、またすぐ来年には一斉改選ということでめぐってくるわけでございますけれども、次回もうちの方の総合福祉課の方で、体制はまた異動して、力山課長は異動になりまして新しく大橋課長という者がおりますので、またその課長を中心にですね、大変な場合はすぐ御相談いただきましたら、きちっと推薦の準備会というものを設けるなどということもできますし、御一緒に回って探してというようなことについては丁寧にやってまいりたいというふうに思いますので、決して町内会長様だけに御負担をおかけするようないくことはないようにさせていただきたいと思っておりますので、何とぞ御理解いただきますよう、よろしく願いいたします。

○司会 よろしいですか。それでは、そのほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。もしなければ、早いのですけれども、終わってしまうことになってしまいますけれども、せつかくの機会ですので、何かございますでしょうか。後ろの男性の方、お願いいたします。

◆市民 住吉泉町の■■■■■申します。ちょっと質問がなかったものですから。これは緑地課に関わることだと思うのですが、公園の芝を刈っていただいているのですよね。それで、今回もお盆前に刈ってくれて大変ありがたかったのですが、ところが公園の横に歩道と車道が。ここの公園にもありますけれども、公園は芝を刈ってくれてきれいになっているのですが、車道と歩道との何ていうのですかね、わかりますか、その間に草がずっと生えているのですよね。それで、業者に恐らく公園の芝を刈ってもらっているのだと思うのですが、ついでにその部分を刈っていただかなければですね、公園は大変きれいなのですが、車道と歩道との間の境目に草が生えて見栄えが悪いのですよね。ですから、ついでといたら悪いのですが、何ぼもかからないので、これ区域が市の係が違うといえども、そのぐらいのことは何とかならないのかなと、いつも考えているのですが、いかがなものでしょう。

○司会 それでは、市から回答をお願いいたします。

◎都市建設部長 都市建設部でございます。いつもお世話になっております。そういった御意見をですね、別なところでも実はございます。それで最近、異常気象といっちはあれなのですけれども、非常に高温多湿で草も伸びやすいという状況が、昔に比べたらあるというところもございまして、あとそれがしばらく種とかが落ちて、刈っていかないとだんだん増えていくというようなちょっと現象がございます。年に1度スクレッパーといひまして、道路の横に側溝がございまして、あの周りを土が散らばっていたりするのを一回きれいにする、そういったときにはスクレッパーで歩道と車道の間的那种草も一緒に引っ張られていくというような状況で、今まではちょっと対応をさせていただいたところもございまして、なかなか

その全ての部分をきれいにするというのは現実的にはちょっと難しい部分もございます。ちょっと御指摘いただいたところがございますら、個別に何か障害があるようでしたら、そちらについては対応させていただきたいなというふうに考えてございますので、後ほどその場所、もしございましたらお伺いをさせていただければと思いますので、御理解をよろしくお願いいたします。

○司会 よろしいですか。はい。

それでは、そのほかにもございますか。お願いいたします。

◆市民 第八区自治会の■■■■といます。木場町の長崎屋の跡ですか、その撤去の問題、アスベストの問題についてお聞きしたいなと思います。新聞では、今実験中とか何とか載っていましたが、詳しい状況というのは全くわからない状況でいます。それで現状について、そして今後の処理ですね。その時期について、いつぐらいを大体想定しているのか。それ一つと、また、撤去後の施設ですね。その利用についてやっぱり駅前ということで市の片面、顔ということで、この辺、何か話し合いとかそういうのを持たれているのかどうかお聞きしたいと思います。

○司会 それでは、市から回答をお願いいたします。

◎環境保全課長補佐 大変、失礼いたしました。市役所環境保全課の課長補佐をさせていただきます佐藤と申します。いつも大変お世話になっております。どうぞよろしくお願いいたします。まず私の方から、今御質問ございました木場町の旧トマモールの現状についてと、それから、いつ再開、それから更地になるか、そういったようなことについてお答えをさせていただきたいと思います。

まず、現状につきましては、先般新聞等でも載っておりましたが、解体して、建物だけではなくて現場には瓦れきがある状況で、瓦れきを適正に処理するためにどうしたらよいかということで、実は少しお時間をいただいているというふうなところなんです。そういった中で先般、お盆前なのですが、実証試験、瓦れきを高圧の水で洗ってどのようになるかというふうなところを、今結果が恐らく間もなく出てくるかというふうに思います。そういった中から具体的な作業方法についていろいろ詰めていきまして、またあのような違反、事故、そういったものが起こらないように、一つ一つ慎重になりながらも、皆さんあのままの状態は非常に不安だと思いますので、速やかに対応を進めていきたいというところで考えているところでございます。そういった具体的な方法が今の段階では、申しわけないのですが固まっていないふうな状況になりますので、まず再開の時期については、この試験の結果の後、うまくいけば少しは見えてくるのではないのかなというふうに思っているところでございます。そういった状況になったときには、業者の方からは、また再度説明会の方、住民等の説明会の方も開催する考えもあるというふうなことを打ち合わせの中では聞いておりますので、またそういった部分で詳しい説明等が業者の方からされてくるというふうに考えております。以上になります。よろしくお願いいたします。

それでもう一つ、それでは私の方から、撤去後はあそこの部分、旧長崎屋のあった部分、ここの撤去後についてなのですけれども、今のところお話を聞いているところでは、看板にも出ていましたけれども、パチンコ店、これが建つというふうなことで、時期等についてはちょっと詳しいことはお話しされないのですが、そういう計画であそこをまず解体更地にして、そういうふうなお話では聞いていたところでございます。以上でございます。

○司会 よろしいでしょうか。はい。それでは、そのほかにいらっしゃいますか。当日参加者との市政に関する意見交換でございますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、ないようですので、これで当日参加者との市政に関する意見交換を終了させていただきます。

最後に、終了にあたりまして市長から御挨拶を申し上げます。

◎市長 いろいろと御意見、御質問等をいただきまして、ありがとうございました。

鹿の問題で、五、六年前にある方が来まして、ある学者さんが鹿対策のためにイギリスからオオカミを連れてきたらどうかという話在实际あったのです。それはもうもちろん実現はしなかったのですが、鹿の唯一の天敵がオオカミということで、当時、今以上に北海道で繁殖が危惧されていたところなものですから、鹿肉の加工とかいろいろな話が出たのだけれども全然追いつかない。もうこれはオオカミを連れてくるしかないという考え方の学者さんのグループが何かあったようであります。しかし、これはなかなか現実的には無理でありますし、 にも1点お詫びしなきゃいけないのは、ちょうど僕の家がこの北側にあります美光町。美光町は、うちもオンコ全部やられました。それで鹿が入り口のところにネット、みっともないのですが、東側と西側にネットを張って対策しました。そうしたら1回だけそれ破られたのですが、それを強力なネットに張り替えまして、そうしたらだんだんだんだん北側がそうやって対策すると、だんだん鹿が南へ南へ行くのです。それで申しわけないなというふうに思います。もう今は相当南に行っているという話がありますけれども、うちもだから3回ネットの張り替えをして、うちの周辺は皆さん本当に苦労しながら、あるいはスプリングス高丘も皆さん苦労しながら対策をしているものですから、だんだんだんだん南に行くと、お詫びを申し上げます。

いろいろな課題もありますけれども、やはり人に危害とか子供たちに危害を与えとか、農作物がやられるとか、あるいは庭木がやられるとかということは、もうある程度今の状況ではやむを得ないと思うのですが、やっぱり子供たちに危害とかお年寄りに危害とか、そういう状態になれば、やはりこれは真剣に考えなきゃいけないのですが、仮に一定地区を対策してももうどうしようもない。もう、全部山にフェンス張って、そのフェンスも相当高いフェンスを北海道じゅうめぐらせないと、これ意味がないぐらいの大変難しい対策になりますけれども、これ道の方でも真剣に今いろいろ手だてをしていますので、ぜひ御理解をいただきたいなというふ

うに思います。市民生活に影響のあるようなことは、やはり市としても重大な関心を持って対策、対応をしていかなければならないというふうに考えていますので、もし何かありましたら、市の担当の方に声を聞かせていただく。できることはすぐやる。できないことは、やはり時間がかかることもあるかもしれませんが、そんな姿勢で市民の皆さんの安心、安全、生活というものを守っていきたいなというふうに思います。

最後になりますけれども、まちかどミーティング第1回目。これで終わらせていただきます。最後までおつき合いをいただきましたことを心から御礼を申し上げます。御挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを終了させていただきます。本日はありがとうございました。